

獣医のカルテ



84



高島獣医科富山東病院長
(富山市水橋小出)

今野 浩明

今年は暑い日が続いてきたのですが、突然気温が下がり体調を崩す高齢の犬猫が来院することが多くなりました。そこで今回は中高齢の猫に多いとされる「変形性関節症」について紹介します。
変形性関節症とは老化をはじめとしてさまざまな原因によって、関節内でクッションとして働いている関節軟骨が変性することにより、骨同士が擦れ合うようになり、関節の痛みや機能障害が生じるものです。
慢性の進行性のもので、12歳以上の猫の90%に認められるとい

猫に多い変形性関節症



階段を上げなくなった17歳の猫

報告もあります。人間でも40〜50歳にかけて肩、膝、股関節などに痛みが出てくるのですが、同様のことが中高齢の猫でも起きているようなのです。
ただ、猫は痛みを我慢したり隠してしまうので気づきにくいことと、歩き方も地面をほうほうに動

日常の異常をチェック

エックリストとして①あまり遊ばなくなり動きがぎこちない②トイレの外で尿や便をしてしまう③階段の上り下りがぎこちない④ソファやベッドにうまく登れない⑤体を触られるのを嫌がる⑥爪があまり伸びず、毛繕いの減少により古い爪が取れず厚くなり伸びている、なども一つのサインかもしれません。

生活環境の改善としては、トイレの高さを低くする、段差を減らす、食器を食べやすいように少し高く上げる、などがあります。肥満も関節や内臓に負担をかけるので普段から食事管理は気を付けてください。また高齢のネコには腎不全や甲状腺機能亢進症なども増えてくるので定期的な血液検査をお勧めします。

くために外見上は異常が分かりにくいのです。実際、病院で猫の歩き方を見ようとしてもほとんど動かないことが多く、他の病気でレントゲンを撮った時に偶然発見されることもあります。
この疾患に限ったことではないのですが、日常生活においてのチ

治療は保存療法で、関節軟骨保護や再生を促すサプリメント、痛みのコントロールになります。中高齢の猫では腎疾患が多いため、消炎鎮痛剤は使用できないことが多いのですが、今年になり腎臓に負担の少ない注射も発売され、これで痛みを軽減できる可能性が出